

校内研究だより#4

学校・学級に適応PT

第3学年 学級活動(2) 「ちがいをみとめ合って」

《授業について》

9月19日金曜日、今年度4回目となる校内研究授業を行いました。今回の校内研究は、第3学年の学級活動(2) によりよい人間関係の形成として、「見た目の違いに関わらず、みんな『同じ人間』として関わっていくことが大切だと理解し、これまでの自己の行いを振り返って、これからの行動を意思決定することができる。」ことをねらいとして授業を行いました。今回は、その様子をお伝えいたします。

①【つかむ】

担任である授業者が学級の普段の様子で気になっていることを伝えるところから始まりました。その後、アンケートの結果を提示し、「見た目に関して言われた言葉に傷ついた経験がある人」が学年で12人いるということを知りました。そうすると、「意外とたくさんいる。」「12人いるのを0にしたい。」といった声が自然発生的に広がりました。そして、子どもたちが塗った顔のイラストと授業者が塗った顔を提示することで、見た目による違いに目を向けられるようにしました。



③【見つける】

「さぐる」段階を経て、「つかむ」段階のアンケートを振り返り、改めて「学年の友達の傷付く人を0人にしたい。」という思いをもちました。そして、みんなで仲良く生活するために自分がすることを3人のグループで話し合いました。話し合いの結果、「友達のすごいところを見付ける。」「たくさん話しかける。」といった具体的な事柄が出ました。授業者は、具体的な意見を拾い、なぜ、そう考えたのかを聞くことを通して、学級全体に考えを広げられるようにしました。



②【さぐる】

「さぐる」段階では、「おおた区報」の人権特集号に掲載された副島さんの記事から傷付いた副島さんだけでなく、傷付けた側の気持ちを考える活動を行いました。

子どもたちは「かわいそう」という第三者の立場からの考えではなく、「なりたくなかった肌の色じゃないのに、なんでいじめられるんだろう。」「蹴られたり、暴力を振るわれたりして、苦しい。」と、副島さんに感情移入し、自分のこととして考えている様子が多く見られました。



④【決める】

「見つける」段階で話し合ったことを基に、「友達と仲良くするために、自分がすること」をワークシートに書きました。この際、複数の取組を書くのではなく、1つのことを具体的に書くよう助言しました。子どもの記述には、「たくさんいっしょに遊んで仲を深める。」「毎日、友達によいところを伝える。」といった具体的な取組の記述が見られました。終わりに、副島さんの動画を視聴し、「違いを楽しもう」というメッセージを受け取り、授業が終わりました。



指導・講評

◎授業の終わりでは、序盤に発言できなかった子どもへの温かいフォローがよかった。

◎動画の視聴を序盤に1回、終盤に1回と分ける構成がよかった。また、題材で活用する本人が話している姿が見られたこともよかった。

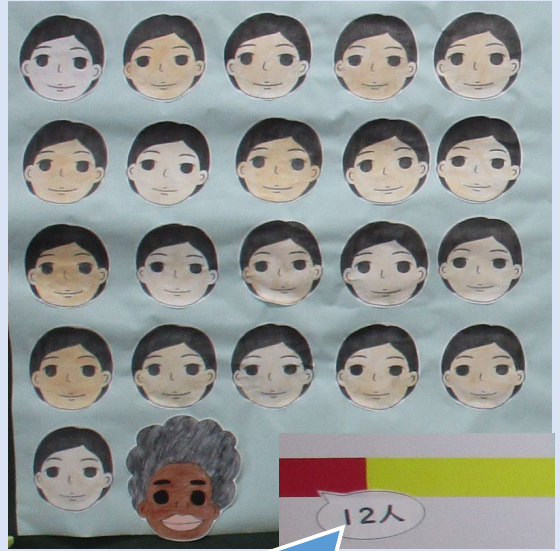
△ワークシートを「今までは〇〇していたけれど、これからは…」という形にすると当事者意識をもって実践していくことができる。

△アンケートを提示する際、赤と黄色で示していたが、どちらが傷付いた人の割合かを予想するよう伝えることで、当事者意識をもって考えることができるようになる。

・学年アンケートの「見た目のことで嫌なことを、周りで聞いたことはありますか。」という問いに対する回答が0人であることと、「見た目のことで言われて嫌だったことがある」人数が12人であることのギャップを提示することで、驚きから本時の課題に向かうこともできたのではないかと。

つかむ

事前にアンケートをとったり、顔の色を塗る活動を行った。これらを提示することで、生活上の課題を解決していこうという意識をもてるようにする。



見た目のことで言われて嫌だったことがある

さぐる

「おおた区報 人権特集号」の内容を示し、見た目の違いで悲しい思いをしてきた人の思いを捉えられるようにする。



きめる

「見つける」段階で話し合ったことを基に、自分が実践していくことを意思決定する。

悪いところを見つけてしまっても、言わないで心の中にしまっておく。その代わりに、毎日、友達のよいところを見つけ、友達に伝えていきたい。



見つける

相手の気持ちを考えて仲よくするために、自分が取り組むことを考え、班で話し合い、短冊にまとめる。

